

「あいち ICT 戦略プラン 2020 年次レポート（2018 年度版）」について

小栗委員

完了した「あいちベンチャーハウス」の後継事業はないのか。

事務局

直接の後継事業ではないが、今年度からソフト面の支援事業である「先進的ベンチャー支援事業」を新たに行うと所管課から聞いている。

岩田会長

「あいちベンチャーハウス」は事業開始から 10 年が経過し、一区切りを付けることとなった。後継の事業は、ハード面の支援からソフト面の支援に移行すると聞いている。

小栗委員

完了したことについての記載だけではなく、次の展開も記載されていると分かりやすい。

岩田会長

後継事業について記載されていると良い。

成果として、「あいちベンチャーハウス」から巣立った企業数の記載があると良い。

事務局

産業労働部に確認して、企業数を記載する。

「事業開始後 10 年が経過し、何社巣立ち、今年度以降はソフト事業を展開する」という書き方とする。

川澄委員

西暦と和暦が混在していて読みにくい。また、元号がなく和暦を用いている部分がある。記載を西暦に揃えることはできないか。

成果として記載している「発信数」などが、いつの期間の値か分からない。2017 年度中の数字であるならば、それが分かるようにすると良い。

「3 まとめ」が、1 年間の総括なのか 2 年間の総括なのかが分からない。

事務局

「3 まとめ」は 2017 年度についての内容である。

成果として記載している数字は、すべて平成 29 年度、平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月の値である。

岩田会長

年次レポートの「2018 年度版」というタイトルも分かりにくい。「2017 年度版」とした方が分かりやすい。

西暦と和暦の混在は分かりにくい。西暦と和暦の併記が良いのではないか。

事務局

イベントの名称等で西暦を使わざるを得ない部分がある。一方で、行政文書であるため、

和暦を使わざるを得ない部分がある。

川澄委員

前年度のレポートと見比べることを考えても、「2 主な実施状況」の前か「3 まとめ」に、平成 29 年度の特徴について記載すべきである。

「3 まとめ」に、「ICT 戦略プラン」策定以降の累年の総括があると良い。

安田委員

実施した項目はいろいろと記載されているが、実際の成果のような全体的な総論のインパクトが弱い。来年度は、表現の仕方を改善してほしい。

産業振興について「あいちベンチャーハウス」などで IT 系のベンチャー企業を支援していることは、愛知県の特徴であるため、是非記載してほしい。

安全・安心の項目として、愛知県の「Lアラート」についての総括があると良い。

今後、「Society5.0」などを踏まえて、都市計画の中に ICT をどう位置づけるかを考えてほしい。都市計画と ICT 戦略プランをどう関連づけるかを考えてほしい。都市計画に土木、建設、交通等の専門家だけでなく ICT の専門家も関わるべきである。

岩田会長

「Society5.0」については 1 ページ目で言及しているが、もう少し関連づけられると良い。

ICT や IoT は、社会インフラに入っていくって、産業や生活の分野の根幹を成すようになる。ICT が社会インフラにどのように係わっていくかの方向性を打ち出せると良い。

事務局

「スマートシティ」や「超スマート社会」というように、まちづくりにも ICT が関わる事が求められているので、関連させていきたい。

竹田委員

「Lアラート」については、「愛知県地域防災計画」に関連したところで評価されていると思われる。

愛知県の「愛知県地域防災計画」に係るシステムが平成 30 年に更改され、その情報が「Lアラート」に連携するようになった。

「Lアラート」は、平成 30 年 5 月に全国で訓練を行ったほか、平成 30 年 7 月の豪雨災害でも活用された。「Lアラート」の情報と報道機関やインターネット事業者の情報を突き合わせると、避難の要否などが一目で理解できた。

「Lアラート」等について県民の認知度は高くないため、「愛知県地域防災計画」等で記載されるかもしれないが、「ICT 戦略プラン」でも「Lアラート」についての記載があると良い。

事務局

防災局に確認して記載する。

河合委員

「子育てワンストップサービス」について、設楽町は全手続きが対応済みと記載されている。設楽町は事務手続きすべてをオンラインで行うということか。

岡崎市では、オンライン化可能だが、面談が必要であると判断してオンライン化していない手続きがある。例えば、保育所の入所手続きは、面談が必要だと判断している。そういう場合はどのように集計されているのか。判断の結果、オンラインでも行えるがオンラインで行っていないものもあることを理解してほしい。

事務局

設楽町で全手続きがオンライン化済みであることは把握できているが、個々の自治体の検討状況等までは把握できていない。記述の仕方を検討する。

白上委員

読む人や活用方法を考えて年次レポートを作成してほしい。

実績を積み上げていることは分かるが、各項目に税金を投下する意味がどれだけあるのか、どれだけ活用されているのかの実感値がない。

来年度以降にまとめ方を改善してほしい。「ICT 戦略プラン」に現状の課題や今後のビジョンが記載されているが、その中の進捗を年次レポートに記載してほしい。

各年度で、その事業が必要な理由を説明するストーリーが記載されると、年次レポートが有意義になる。

今後、事業を行うにあたり、観光・交流拡大では各事業の統一的なブランディングがあると良い。例えば、熊本県は「くまモン」で統一的にブランディングされている。

岩田会長

たしかに、ブランド感があると良い。

春日委員

各項目で行った内容を記載した後に、もう一言あると良い。定量的な評価が難しい項目も多いだろうが、「～に貢献した」、「今後、成果が現れる予定である」などの記載があると良い。

県民が動画再生回数や発信数などの値を評価することは難しい。他県と比べるようなことが良いかは分からないが、何らかの見方が提示できると良い。

ICT の動向は変化が速い。難しいと思うが、年度中に発生した新しい社会課題について記載できると良い。

川澄委員

例えば、「異常気象や猛暑に対し、ICT で働き方を変えることで解決を図る」のように、今年らしいものがまとめに記載されていると良いのではないかと。地震や水害だけでなく、猛暑についての情報発信も良いのではないかと。

5年計画で記載されていた項目だけでなく、新しい項目が追加されることは自然なことであり、良いことである。

事務局

今後は通信環境の変化として5Gを取り上げるのも良いかもしれない。

竹田委員

来週、「まち・ひと・しごと総合戦略」の検証会議が開催される。「まち・ひと・しごと総合戦略」はICTの導入自体を目的とはしていないが、「まち・ひと・しごと総合戦略」で何かの課題解決を図る際にICTを使わないということはほとんどない。

「ICT戦略プラン」と「まち・ひと・しごと総合戦略」は密接に係るものである。「まち・ひと・しごと総合戦略」の評価指標を「ICT戦略プラン」で参照できると良い。評価時期の違いなどの難しさもあるが、「ICT戦略プラン」と「まち・ひと・しごと総合戦略」の評価を関連づけられると、県民にとっても評価が分かりやすい。

岩田委員

年次レポートは実施したことは記載されているが、その先の成果も記載されると良い。新しい課題とその対応として検討すべきことが記載されると良い。